

まだあげ初めく前髪の
林檎のもとに見えくとき、
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへくは
薄紅の秋の実に
くくひ初めくはぐめなり

若菜集より

かく

(行書)

課題解説

声に出して読みたい藤村詩集

この課題文は島崎藤村の詩集「若菜集」にある『初恋』の4節のうち2節である。浪漫主義的抒情詩人と呼ばれる藤村の主要テーマは恋愛。『初恋』は代表的作品として多くの人が暗唱する。「まだあげ初めし」「やさしく白き」に続く第3、4節は「わがころなきためいきの その髪の毛にかゝるとき たのしき恋の盃を君が情けに酌みしかな／林檎島の樹の下に おのづからなる細道は 誰が踏みかためしかたみぞと 問ひたまふことこひしけれ」。

「小諸なる・・・」の五七調に対し、七五調のリズムに注目し暗唱しよう。

※林檎（りんご）、花櫛（はなぐし）、薄紅（うすくれない）

角川学芸出版

「えんぴつ文字練習帳（応用発展編）」所収